

# えんがわ通信



第19号 2013年7月  
発行 ＊ 一般社団法人パーソナルサポートセンター  
住所 / 仙台市青葉区二日町6-6 シャンボール青葉2階  
電話 / 022-399-9662 FAX / 022-224-1621  
MAIL / contact@personal-support.org  
WEB / http://www.personal-support.org/

## 「童心に戻ったみたい」と大喜び 七夕イベントで学生と被災者交流

## 「えんがわ」スナッフ



▲復興への願いを込めた短冊  
▲30度を超える暑さの中、流しそうめんを味わう参加者

七夕を楽しんでほしい。昨年度、PSCの農作業体験にわたった宮城大食産学部部の学生が7月7日、コミュニティ・ウィークサロン「えんがわ」(太白区)を訪れ、七夕飾りを作ったり、流しそうめんをしたりして、被災者と交流を深めた。



▲学生ボランティアから七夕飾りの作り方を教わる参加者

参加者は「童心に戻ったみたい」「楽しい」と大喜び。完成した短冊には復興への思いが書きつづられていた。

## 就職に役立つメニュー提供 「わあくしよつぷ」オープン



働く意欲を高めてもらうのが狙い。利用する被災者の就職に役立つさまざまなメニューを提供する「わあくしよつぷ」が、7月25日、就労準備支援センター「わあくしよつぷ」を同区二日町にオープンさせた。

一般社団法人「パーソナルサポートセンター」(青葉区・略称PSC)は7月25日、就労準備支援センター「わあくしよつぷ」を同区二日町にオープンさせた。

「わあくしよつぷ」は、さまざまな体験を通して、仕事をするためのスキルアップをしてほしいという願いを込め、体験講座を意味する「ワークショップ」という言葉をもとに名づけられた。

汗を流す中で、仕事について考え、徐々にでもいので、自信をつけてもらえれば、うれしい」と話している。

## 総合相談センター「わんすてつぷ」に

被災により生活が困難した人たちを対象に、複合的な悩みに応じるPSC総合相談センター(青葉区二日町)の名称が「わんすてつぷ」に決まり、6月上旬、同町内の別な建物に移転した。

に就労相談支援センター「わつくわあく」で相談が必要。予約の受付は、月曜から金曜の午前9時半～午後5時。連絡先は022(395)6323まで。

## 復興住宅の予定地を視察 支援2団体がバスツアー

POSSE PSC

被災者の就労支援に取り組むNPO法人「POSSE」の仙台支部(青葉区)とPSCは6月15日、青葉区川内の借り上げ公営仮設住宅の入居者を対象に、復興公営住宅の建設予定地を回るバスツアーを実施した。

6月15日のツアーには、17人が参加。スーパー



「仕事で一番大事な心を持って」と職業体験実習生を評する奥江呉服店(若林区)の佐藤隆俊社長。呉服店ではいま、地域密着をモットーに、被災者支援にも力を注いでいます。震災後の取り組みについて、佐藤社長に話を聞きました。

### Interview

呉服店は女性の魅力を発揮してもらえぬ職場。地域密着で今後も協力していきたい。

奥江呉服店 社長 佐藤 隆俊 さん

### 農業体験記

震災前、田んぼや畑、いぐねが広がっていた若林区三本塚地区。この地でPSCは野菜の栽培を始めました。畑には、震災の爪痕(つめあと)がまだ残っていますが、被災者のみなさんと工夫をしながら、おいしい野菜を届けることができます。このコーナーでは毎月、農場の様子をレポートします。

### えんがわの輪⑦

橋沼 武範さん(29)  
II宮城野区扇町一丁目

「少しずつ恩返ししたい」  
震災の時は、勤務先の塩釜市内の菓子店で、お菓子を焼いていました。津波で冷蔵庫が使えなくなり、中にあった商品を避難所で配ったことをいまも覚えていいます。

その後、仙台市内の実家に戻ったのですが、2度目の大地震で住めなくなり、いまは、両親と仮設住宅に住んでいます。

仮設住宅に入って3カ月ほど、外に出る気持ちになれませんでした。PSCスタッフの誘いで「えんがわ」の封入作業に参加し、楽しく、ストレスが発散できました。

被災者になって初めて、支援をしてくれた方々の心の温かさを感じることができました。同じ志を持つ仲間と今後、少しずつ恩返しができるかと思っています。

# TOPICS (8月)

## コミュニティ・ワークサロン「えんがわ」

◇写真撮影会：8月2日(金) 10:00~15:00

世界各地でさまざまな人々を撮り続けている、フォトグラファー・映像作家のやまよしちえさんが「えんがわ」にやってきます。家族や友達と、とっておきの「一枚」を撮ってもらいませんか。

◎お申込み・お問い合わせ  
TEL: 022-395-6258 [PSC就労準備課]

## ちっちゃいビジネス開業応援塾ミニ講座「私にもできる?ちっちゃいビジネス」(無料)

自分の得意なことを活かして働きたい、雑貨屋さんを始めたい、いつかカフェをやりたい、みんなの集まる場をつくりたい...そんなあなたの「好き・やってみよう」を仕事にしてみませんか?小規模の起業の実例やサポートについてご紹介します。(個別に相談をご希望の方は、下記までご連絡ください。)

■日時：8月9日(金) 13:30~15:00  
■場所：コミュニティ・ワークサロン「えんがわ」  
■対象：自分で仕事を始めてみたい方、起業に関心のある方  
◎お申込み・お問い合わせ：(株)ちいネット地域ビジネス創出支援チーム(仙台市の委託事業)  
TEL: 022-726-0341, FAX: 022-726-0343  
Eメール: info@chiiki-biz-sendai.net  
HP:「ちっちゃいビジネス開業応援塾」で検索

## 就職やキャリアに関する個別相談

プロのコウンセラーによる就職や進路・キャリアに関する個別相談です。(就職のあっせんではありません)  
■日時：8月28日(水) 10:00~18:00(お一人50分)  
■場所：AER 6階 情報・産業プラザ  
■対象：①学生・求職中の方(年齢不問)、  
②在職者(30代まで) [定員：20人]  
■申込締切：8月21日(水) 必着

## 求人者のホンネを知って自分を魅せる就勝セミナー

企業採用担当者が語るホンネ座談会および自己PRのコツを学ぶ体験型講座です。  
■日時：9月7日(土) 10:00~16:00  
■場所：AER 7階 会議室  
■対象：学生・求職中の方 [定員30人]  
■申込締切：8月30日(金) 必着  
◎申込方法：郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・希望の催し名・学生/求職中/在職中のいずれかを記入し、郵便・FAX・Eメールでお申込みください。締切後に応募者全員に決定通知書をお送りします。  
◎お申込み・お問い合わせ：仙台市産業振興事業団  
〒980-6107 仙台市青葉区中央1-3-1 AER7階  
TEL: 022-724-1212, FAX: 022-715-8205  
Eメール: koyoushien@siip.city.sendai.jp

## のびすく仙台

**女性相談 申込不要**  
家庭、子ども、仕事、そして自分のこと相談員に話してみませんか? ※予約は不要です。受付でお声掛けください。  
■日時：8月6日(火)・20日(火) 10:30~12:30  
**プレパママミニ講座「ぶちサロン」 8/1~申込開始**  
沐浴体験や妊婦体験、おしゃべりタイムもあります。  
子どもが生まれる前に、のびすく仙台に来てみませんか?  
■日時：8月31日(土) 10:00~11:00  
■対象：初めてパママになる方 [定員6組]  
◎お申込み・お問い合わせ：のびすく仙台  
TEL: 022-726-6181, FAX: 022-214-5071

## 放課後学習サポーター 募集!

お金の問題によって、放課後の教育機会や人とのつながりが限られている子どもたちに、コミュニケーションをベースとした、宿題や学習サポートのボランティアをしてくれる方を募集します。  
■活動内容：子どもを承認し、励ましながらの学習サポート  
■対象：中学1年生~3年生の数学・国語・英語・理科・社会  
■活動日時：毎週月曜日~金曜日 午後18:00~21:00 ※ご希望の曜日をご相談ください。  
■活動場所：太白区内(その他の教室もあります) ※現地までの交通費は全額お支払いいたします。  
■応募条件：高校生・大学生・社会人の方で、週1回以上参加できる方歓迎(毎週は難しいという方もご相談ください) ※定期的に学習サポーター研修、コーチング研修を開催しておりますので、学習指導が未経験の方でも大丈夫です。 ※仙台市委託事業・低所得者世帯のための学習サポート事業  
◎連絡先：NPO 法人アスイク(担当：佐々木)  
〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 5-3-21-101  
TEL・FAX: 022-781-5576 (070-5620-8554)  
Eメール: info@asuiku.org, HP: http://asuiku.org

# えんがわ通信 求人情報

就労支援相談センター「わっくわあく」(PSC就労支援部)と提携する特定非営利活動法人「ワンファミリー仙台」が、求人情報をお届けします。  
※特定非営利活動法人「ワンファミリー仙台」無料職業紹介事業(許可番号04-ム-300010)

●パート  
マンション管理・清掃 青葉区上杉

マンション共用部の清掃、設備点検等の業者立会、来客・居住者対応等

給 与/時間給 760円  
通勤手当(上限有)

勤務時間/9:00~12:00  
時間外なし、休憩時間なし

休日・休暇/火・木・土・日  
加入保険/労災  
免許・資格/不問

コミュニティワン株式会社 東北支店

●委託  
サービス業 指定エリア

エリアごとのポスティング

給 与/出来高制  
勤務時間/毎週火・金曜日  
明るい時間帯の2~5時間  
時間外なし

休日・休暇/勤務状態による  
加入保険/傷害保険制度  
免許・資格/不問

株式会社 アオバヤ

●フルタイム(準社員)  
ガラス清掃 青葉区小田原

ビル等のガラス清掃業務(高所作業)

給 与/176,000~264,000円  
勤務時間/8:00~17:00  
時間外月平均15時間  
休憩時間100分

休日・休暇/シフト制  
加入保険/雇用・労災・健康・厚生  
免許・資格/普通自動車免許(AT車限定可)

株式会社 オプス

●パート  
清掃 仙台市内

事務室・共用部の清掃(掃き・拭き・掃除機かけ)、トイレ清掃有

給 与/時間給 750円  
通勤手当

勤務時間/7:00~11:15(休憩時間15分)、  
7:30~11:45(休憩時間15分)、  
時間外月平均5時間、

休日・休暇/日曜・祝日  
加入保険/雇用・労災  
免許・資格/不問

テルウェル東日本株式会社 東北支店

●パート  
警備 青葉区(定禅寺通・広瀬通・仙台駅地区)

バス停留所周辺における駐停車車両の監視・誘導(事前教育期間有)

給 与/時間給 700円~800円  
通勤手当(上限有)  
※事前教育期間は時給685円

勤務時間/9:30~22:30の間の8時間程度、時間外なし、休憩時間90分

休日・休暇/シフト制  
加入保険/雇用・労災・健康・厚生  
免許・資格/不問(交通誘導警備検定資格者優遇)

株式会社 コアズ仙台支社

●正社員  
調理人 青葉区国分町

かに料理の仕込み、調理

給 与/150,000~200,000円  
(月額換算・月労働時間22.0日)  
通勤手当(上限有)

勤務時間/10:00~22:00の間の8時間程度、時間外月平均20時間、  
休憩時間120分

休日・休暇/シフト制  
加入保険/雇用・労災・健康・厚生  
免許・資格/不問

寿観光株式会社

※求人募集が終了している場合がございますので、あらかじめご了承ください。

求人に関する問い合わせ ▶ ワンファミリー仙台 求人担当 022-395-6364

就職についてのご相談 ▶ 就労支援相談センター「わっくわあく」 022-395-6323

### 東北ろっけんパーク販売開始

「CWS」えんがわ

PSCは7月から青葉区の復興交流拠点「東北ろっけんパーク」で、手づくり商品の販売を始めた。

販売しているのは、「えんがわ」で被災者が手掛けた「ころころにこまる」と「えんがわキャンドル」。

3種類II写真II。同施設の1階に商品を置いていく。売り上げの一部は作り手に渡る。担当者は「市内中心部に足を運ぶときには、立ち寄ってほしい」と話している。

東北ろっけんパークは、仙台や東北の観光・物産・起業の拠点になることを目的に昨年オープン。現



在、約80団体が出品し、仮設住宅入居者が作った手しごと品などを販売している。連絡先は、東北ろっけんパーク022(395)6101まで。

### 気仙沼で「ものづくり交流」

PSCも手しごと商品出品

被災地で作られた商品を通じて、被災者らが交流をする「復興ものづくり交流会」が6月15日、気仙沼市役所であった。

被災地で製作された手づくり作品の展示・販売と、作り手同士の交流を目的に、県内で復興支援に取り組みNPO法人などでつくる実行委員会が企画。ことし1月に石巻市内で行わ



体が、ストラップやネットワークスなどを販売した。そのうちPSCは6月上旬に、コミュニティ・ワークサロン「えんがわ」(太白区)で4人の女性が数日かけて作った「ころころにこまる」と「キャンドル」を出品II写真II。訪れた来場者は、「何人の作り手さんで作っているのですか」と担当者に質問したり、「かわいい」と興味深そうに見入ったりしながら、商品を買っていった。

▲「えんがわ」の商品に見入る来場者(左)

## 「えんがわ」のつばやき 暑い夏に寄せる期待

毎日、暑い日が続いている。梅雨明け前から、夏本番を思わせる暑さだ。西日本では35度を超える日が続き、一度の猛暑とか。暑い夏になりそうだ。

夏といえば、何を連想するだろうか。冷たいビールと枝豆だろうか。花火や、海水浴、浴衣を思い浮かべる人もいるかもしれない。

私にとっては何と云っても野球だ。いまと違って水を一滴も飲めずに打ち込んだ中・高校時代のきつい練習を思い出す。

今では良き思い出だが、当時の仲間に出会って、でも、かつての試合をめぐって、「たら」「れば」の話になり、つい感情が「あの頃」に戻ってしまう。

地元のプロ野球チームはいまリーグトップで、優勝を狙える位置にいる。地元を誇る位置にいる。地元を誇っている。優勝旗が白河の関を越える暑い夏になればと思う。(H・I)